



企業製品とサービスという新しい可能性

令和6年11月2日

黒田インターナショナルコンサルティング LLC

黒田 毅

時代変化は既存製品とサービスの崩壊を有する。新しい基準が存在し、それがマグニフィセント7という基準であるならば、企業尾は人材の確保と行動を要求されるのである。

これは未来への転換は必ずそれら現実を企業に要求するはずである。そのため今日それを行うことが未来における生き残りを与えるのである。

これらは知的進歩性と企業システムの次世代転換の要求である。これらがグローバリズムにおいて、世界における優秀な人材がこれら現実を自己としていることは理解しなくてはならない。

これらは決して理想でなく、現実であるという理解は必ず正しいのである。

それにおいて企業計画はそれら基準における企業製品の構築を求め、それら新しい人材におけるその基準と高い理解において、企業経営と製品サービスの構築を要求されるのである。

またこれらはグローバリズムにおいて決して、飛躍的な理想や未来という現実ではないのであり、これらが基準そのものであることは真実なのである。

これらは既存現実がもはや通用しないことを表すものである。また新規企業経営基準の受け入れは企業において不可避の現実なのである。

これらが高い知的進歩性における新しい技術製品とサービスの構築であることは理解しなくてはならない。

またこれら基準における企業製品とサービスの構築は、グローバル市場における参加基準に過ぎないことは真実なのである。

そのため企業転換におけるこれら基準の受け入れは、時代性と現実に適合した企業への転換に過ぎないのである。